

シン・地魚見本市を開催しました

1. 開催趣旨

本県では、底曳網での漁獲物を始めとして、漁獲されるものの価値が低いという理由で利用されていない資源（未利用、低利用資源）が存在します。水産試験場では、これらの資源の有効活用を図るため、未利用・低利用となっている資源を「シン・地魚」と銘打ち、水産試験場の調査船「いばらき丸」による底曳網調査で漁獲された魚類等を展示する「シン・地魚見本市」を3月5日に開催しました（図1）。

2. 開催結果

見本市当日には、水産加工業者や卸業者を始めとして計36名の方にお越しいただきました（図2）。来場者からは、「こういう魚が獲れることを知らなかった」「サンプルとして加工してみたい」といった声が聞かれました。アンケートの結果、「大いに参考になった」「まあまあ参考になった」という回答割合が94%と高く、特に興味を持った魚として回答が多かった魚種は「オキアナゴ」「アカドンコ」「ミドリフサアンコウ」「アメリカナマズ」でした。また、「積極的に取り扱いを検討したい」「価格や条件が合えば取り扱いを検討したい」との回答も多く得られ、今後の水揚げにつながる可能性も感じられました。

今回の見本市の結果を踏まえ、水産試験場では今後も資源の有効活用に向けた取組を進めてまいりますので、引き続きご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

（定着性資源部
 水産物利用加工部



図1. 見本市開催ポスター
 （上：表面、下：裏面）

多賀・外山・水谷・西
 小松・渡邊・鈴木・高濱



図2. シン・地魚見本市当日の様子
 （左：展示物よりミドリフサアンコウ・ホシザメ、右：展示物の一覧）